
編集後記

我が国の透析患者の高齢化は益々顕著化しており、統計調査では平成26年末には65歳以上は65.3%となり、80歳以上は16.5%となっています。このような高齢透析患者は種々の合併症を有し、維持透析を継続するには多職種が関わるチーム医療が必要であると考えられます。

最近では医療施設の医療の質が問われる時代になってきました。そこで、日本透析医会では2013年に自主機能評価指標を提案し、各施設が自主的に公開することを推奨しています。本号では山川理事が自主機能評価の意義について解説されています。今のところ自主的に公開している施設は少なく、医療施設自身の意識改革が必要であると考えられます。

本号も医療安全、実態調査の報告があり、学術論文として、最近のトピックスの執筆を頂きました。透析医会の公募研究助成の応募は基礎研究と臨床研究ともに沢山応募があり、選考のもとに助成がなされ、研究の補助が行われ、その成果が報告されています。透析医会としての大きな事業でもあり、今後も大いに活用されることが期待されます。

その他、メディカル・エッセイ、書評、透析医のひとりごとなど興味ある掲載があり、一読されることをお勧めします。

広報委員 原田孝司